



SAMS Information

The University of Tokushima Graduate School, Institute of Health Biosciences,
Support Center for Advanced Medical Sciences (SAMS)

No. 23
2009/10/14

第51回 HBS研究部 先端医研テクニカルセミナー

磁気ビーズ法を用いたタンパク質分離精製技術

～免疫沈降、クロマチン免疫沈降など～

総合研究支援センター 先端医療研究支援部門（旧 先端医療研究資源・技術支援センター）では、皆様の研究にお役に立つようなテクニカルセミナーをシリーズで開いております。

今回は、磁気ビーズ法の基礎技術から最新の応用例までを(株)ベリタス の方にご紹介いただきます。ご興味のある方は是非ご参加ください。

日 時	: 平成21年10月29日（木）14:00 ~ 14:50
場 所	: 第一カンファレンス室（医学部基礎A棟1階）
講 師	: (株)ベリタス 技術営業部 田部 宏和

プログラム

14:00 ~ 14:05	はじめに	先端医療研究支援部門長	佐々木卓也
14:05 ~ 14:50	磁気ビーズ法の基礎技術から最新の応用例		田部 宏和

概 要

磁気ビーズを用いた各種分離精製実験は以前から研究者の間で広く活用されており、確立された技術となっておりました。昨今、タンパク質の解析が盛んに行われるようになってからは、高純度のターゲットタンパク質を再現性よく得られる精製方法としてさらに注目を集めてきております。特に免疫沈降法やクロマチン免疫沈降法での磁気ビーズの使用は、従来のセファロース/アガローススラリーを使用した方法では得られないデータを提供することが可能であり、タンパク質解析の必須アイテムとなっております。また、磁気ビーズの技術はビーズ表面の性質を変えることで様々なアプリケーションに使用可能で、応用範囲が広がってきております。